

佐渡市



農業委員会だより

No.41
令和 7 年 10 月
編集・発行
佐渡市農業委員会
0259-63-5115
会長 金田 勝廣

令和 7 年 5 月 28 日に、東京の渋谷公会堂を会場に、会長以下関係者を含めて約千八百人の方々が参加し、令和 7 年度全国農業委員会会長大会が盛大に開催されました。国会中にも関わらず衆参両議院から多くの議員の方々が来賓として来場されました。

令和 6 年 6 月に食料・農業・農村基本法が改正され、令和 7 年度からの初動 5 年間で「農業構造転換集中対策期間」と位置付け、各種施策の見直しを行うため、「改正基本法、基本計画における政策の実践に向けた提案」を議決しました。大項目では 6 項目で次のとおりです。（中項目としては多数のため記載省略）

- ① 施策の具体化
- ② 地域計画の実行に向けた支援
- ③ 時代に適合した農地制度への見直し
- ④ 農業・農村を担う者の育成・確保
- ⑤ 農村の振興



⑥ 農業委員会系統組織の予算確保と体制整備

大会終了後、都道府県選出の国会議員に対して議決された議件の趣旨説明を行い、スムーズに審議可決されるよう要請をしました。

翌日、10 分程度でしたが、青森県津軽地方某町の会長と雑談しました。

津軽半島では基盤整備中で、一区画 2 畝の面積です。ちょうど田植えの時期のため一旦田植えを中断し大会に参加しました。すぐに帰省し田植えに戻ると



農業委員会 H.P

過去の「農業委員会だより」が見られます。



<https://www.city.sado.niigata.jp/site/noui/>



言われ、知名度の高い新潟のコシヒカリが羨ましいと言っていました。また、お互いに担い手不足、後継者不足で将来の農業継続がかなり厳しいと話合いました。

全国農業委員会会長大会に参加して



農業委員会 会長
金田勝廣（佐和田）

地域で頑張る農業者を紹介 中核的農業を担う 株式会社高橋産業



農業委員
佐々木雅文（真野）

平成 17 年に有限会社高橋農園として法人を立ち上げ、昨年で 20 周年の節目を迎え、現在は株式会社高橋産業である代表取締役の高橋正行さん（61）に農業にかける思いを伺いました。

高齢化による農家戸数の減少が続く中であるが、農業はまだまだ伸びしろがある。また、農地も守っていきたい、そのため企業として取引をしていきたいとの思いから市役所を早期退職し、法人を立ち上げました。

経営規模は、当初 11 畝から現在は 52 畝と年々規模拡大をしています。最初の 10 年間は集積、次の 10 年間は集約に取り組んできました。水稻が中心であり、在来コシヒカリ、コシヒカリ BL、ゆきん子舞が主です。酒米として五百万石、島内では珍しいミルクークイーンなども扱っています。それ以外では、WCS、大豆、



そばなど多角的に栽培しています。販路はネット販売が好評で、関東のスーパーや島内ホテルにも卸しているそうです。従業員は 5 名で 20 代、30 代から 40 代、60 代と様々です。通年雇用の確保のため、冬の除雪や河川堤防の除草なども行っています。食味センサー付きの大型コンバイン、ドローンでの防除等スマート農業も取り入れ、省力化、効率化も図っています。最後に将来像をお聞きすると規模拡大も考えてはいるが、不透明な部分もある。しかし、農地を守るお手伝いをしていきたいし、次への継承もしっかりと語ってくれました。

これからも地域の田んぼを守る会社として活躍を期待します。



老後生活への備えは十分ですか？

老後の備えは 国民年金＋農業者年金！

- 支払った保険料は **全額社会保険料控除の対象！**
- 運用益は非課税！**
そのほか生涯を通じて様々な税制面での優遇措置がある！
- 農業経営の状況に応じて **保険料を増額し、節税額をアップ！**

※農業者年金に加入できる方の要件は以下の通りです。

- ・年間 60 日以上農業に従事している方で、
- ・国民年金第 1 号被保険者（60 歳未満）
- 又は、国民年金の任意加入者（60 歳以上 65 歳未満）

※詳しくは、お近くの農業委員会、又は JA へ！

詳しくは... <https://www.nounen.go.jp>



編集後記

米の小売価格が高騰した「令和の米騒動」から一年余りが過ぎてもまだ収束の兆しが見えない。良かったのは農家の苦勞もみて「米の適正価格」を国民が考えてくれたことだと思う。生産者は販売価格も上昇し、農業の維持に一定のめどが見えるようになった。しかし、耕作者の高齢化と作業機械、肥料の高騰で依然として農地の維持に課題は多い。組合や法人化で、機械の大型化、農用地の集約化も含め農業維持のために頑張らしよう。

最後に本誌発行に際し、お忙しい中での協力ありがとうございました。

中川

広報・研修委員長 民部 猛（羽茂）
副委員長 佐々木雅文（真野）
委員 渡邊 秀一（両津）
委員 西村 幸子（相川）
委員 中川 義弘（畑野）



農業委員会視察研修報告



農業委員

土屋 七司（佐和田）

令和7年7月10～11日の上越地区視察研修に参加しました。主な視察先での研修の様子を報告します。

◆農研機構中日本農業研究センター

農研機構は、全国的に展開する研究組織で、地域の農業・農業経営が抱える課題解決を図る研究や技術の開発に取り組んでいます。今回は「水稲初冬直播き栽培」について研修を深めました。

近年、農業従事者の高齢化と離農に伴い、比較的若い地域農業の担い手に農地が集積しています。急激に増加した農地の稲作業の分散効率化を図ることは重要です。この「水稲初冬直播き栽培」は、初冬に田んぼにタネを直播きし、そのまま雪の下で越冬させ、春に発芽・苗立ちさせる栽培法です。

所内試験では、品種「つきあかり」の種に殺菌剤を塗沫し、深度1.0～1.5cm程度になるように10a当たり10kgの種を機



水稲初冬直播き機の見学

械播種すると、安定収量に必要な苗立ち率が得られました。その後、県内の各地で栽培を試みると、移植栽培には劣るものの生産者が納得できる収量が得られました。

播種適期、品種、圃場準備、種子準備、春の土壌鎮圧、雑草管理等の技術向上が必要ですが、先進的な栽培方法に感銘しました。

◆有限会社グリーンファーム清里

地域農業者の高齢化と作業委託希望農家の増加の中で、農作業受託の受け皿として設立された公社と一体化した農業法人です。

「清里」農場化計画の下、地域農業

が進められています。その根底にあるのは設立者保坂一八氏の「清里の耕作放棄地を無くし郷土の農地を守る」という熱い思いです。計画には、地域の中山間地の農地保全という「社会的使命」と経営体として「独立採算」を両立させる経営盤石化の戦略が盛り込まれています。経営の多角化・複合化を進め、水稲当初面積18haが182haに増え、清里全体の85%を保有するまでになっています。その他ハウス園芸をはじめとし和牛繁殖・ブドウ栽培・薪製造及びもみがらを活用した固形燃料等に取組んでいます。

新たな事業を始める際は、スモールスタートを意識し、最初の5年は小規模で試作し、技術の習得や作業を分散できるか吟味し、収益が得られると判断できたら本格的に栽培を始めます。一企業として利益を追求するだけでなく、圃場整備の大区画化の推進や集落の広域連携の促進に向け、農地の利用調整、農作業の連携調整、農業振興企画運営等に積極的に取組んでおられます。

今後の夢として、「農場の隣に農家レストランを建てたい」と思っている。そこで自社の農産物を使った料理の提供や農産物の販売、そして地域外からもたくさんの

ろう。

遊休農地の例として訪れたのは金井地区の山間地域で、2車線のきれいに整備された道路のすぐ北側にある5,880㎡の田んぼ。背の高い草が生い茂り、ところどころ木が生え始めている。隣接する道路は草刈りがされているが、黄区分（基盤整備事業等の条件整備が必要となる農地）から赤区分（森林・原野化している等、農地に還元して利用することが不可能な土地）にやがてなるであらう。

次に訪れた遊休農地は佐和田地区で、まだ田植えもされてなく草が生え始めている。田んぼのその奥には藪が見える。全く管理されていない状態で、荒れ果てた山になろうとしている。

令和7年6月19日の朝日新聞の「声」の欄に、『みんなで作る』農業 夢じゃない』のタイトルで三重県の方から投稿があった。日本の農業は、大規模農業や法人化だけが解決策ではなく、「細々続ける」農業、農家だけに任せないでみんなで作る農業が解決策の一つになりえるとの意見。大賛成である。

我々、農業委員会（農地管理のプロ）がいろんな意見を持ち寄り日本の農業

を変えていきたいと思う。

今回の農地パトロールでは、市役所近くの農地から駐車場への転用許可と、山間部の遊休農地まで佐渡の農政の課題が見られた。若者が作りたくなるような田んぼや畑をどのように増やしていけばいいのか、担い手をいかに確保するかが今後の佐渡の農地利用を進めるうえで重要になる。魅力ある佐渡にするには、田んぼを大規模化するだけではなく若者が作りたくなる田んぼや畑を提供できる政策が必要になると思う。



金井地区山間地域の遊休農地を確認中

人に来てもらい、地域振興に寄与していきたい」と語っていました。

郷土清里の農地へ熱い思いから発した活動が、清里に根付き、そして清里が発展していることに強く心を打たれました。



自社開発の日本酒等



ワイン用ブドウのポット栽培の説明

全国農業新聞の普及拡張に対し、全国表彰！

佐渡市農業委員会は、全国農業新聞の普及部数が全国で第7位となり、普及拡張特別優秀農業委員会として表彰を受けました。



全国農業新聞とは…

地域農業者の代表機関である農業委員会のネットワークが発行する、週刊の農業総合専門誌です。農家の思いを伝え農業・農村の「未来を共に考えます。」

週刊 毎週金曜日発行
月 700 円
（お試し期間もあります。）

■購読の申込は、
佐渡市農業委員会へお気軽に連絡ください。

